

自主性のための闘争で世界がチュチェ思想に注目

ロシア科学アカデミー東洋学研究所部長
アレクサンドル・ヴォロンツォフ

親愛な議長先生

親愛な同志と友人のみなさん

本日のセミナーに参加でき、わたしはたいへん光榮に存じます。

6 日後には、わたしたちは朝鮮民主主義人民共和国創建 75 周年を迎えます。朝鮮は長期にわたり、大きな成果を積み上げてきました。75 年は、ソ連が存在した期間よりも長い期間です。

この期間に、朝鮮は実に偉大な成果を達成しました。75 年という期間、朝鮮は、米国の頭目とする西側からの強大な圧力にさらされてきました。そして、強い国際的な制裁と圧力が加えられる、そのような困難な状況のなかで、朝鮮が大きな成功をおさめた理由はなんなのか。朝鮮は、ただ困難ななかで、自己を保存できたというだけではなく、核ミサイルはじめ、強力な自衛力をきずきあげました。みなさんはすでにその答えを見出しています。

その理由はチュチェ思想と、チュチェ思想にそって前進しようとする朝鮮の指導部にあります。朝鮮は、きわめて困難な状況においても乗り越えることができた理由はまさにそこにあります。

そして、わたしはいま、なぜチュチェ思想が世界において、わが国ロシアにおいても注目されるようになったのはなぜかと考えております。

わが国ロシアにおいてチュチェ思想が注目されるようになったのは、みなさんをご存知のように、ロシアが自主性のための闘争、自主権を有するすべての世界人民の権利のための闘争の最前線にいるからです。

こんにちのロシアもまた、経済的、軍事的、政治的、思想的に、なにもかもが一緒になって、強い制裁、強い圧力のもとに置かれています。

このような状況下にあるロシアはいま、朝鮮の経験に以前にも増して注目しています。どのようにして朝鮮は生き延びることができたのか、朝鮮の力の源泉はなにか、朝鮮の内的、外的な強さとはなにか、と注目しているのです。

ロシアの公共機関だけではなく、青年世代を含めた広範な人々が朝鮮とチュチェ思想に注目しています。最近では、政府の役人までもが、わたしのような朝鮮問題の専門家に朝鮮の成功の秘訣はなにかと、聞いてくるのです。朝鮮の力の源泉はなにかと、チュチェ思想とはどのような思想なのかと尋ねてくるのです。このようにロシア政府は、朝

鮮の経験にますます関心の度合を強めています。

もう少し例をあげますが、ロシアは、朝鮮との友好的、文化的な関係を数十年にわたってもってきています。最近の10年間を見ても、ロシア外務省の代表、各官庁の代表ももちろん含まれますが、わたしたち朝鮮問題専門家が組織する会議や集まりにみな参加し、そこで話されることやわたしたちの活動の経験、朝鮮の活動の経験について、チュチェ思想について耳を傾けています。わたしは、チュチェ思想が強い影響力をもって、なぜ世界に広がり、普及されているのかの一端をご紹介させていただきました。

ありがとうございました。